

東京空襲

大山陽子さん

今年は終戦から70年になります。戦争のこわさを思い出しつつ戦災にあった時のことを書いてみようと思いました。私は昭和6年11月東京の神田(昔は神田区でしたが今は千代田区です)に生まれました。昭和16年12月8日に大東亜戦争が始まったことをラジオから知らされました。母が町内からの知らせで、バケツに水をいっぱい入れて次々と渡して火災を消す訓練をしたりしていました。昭和18年、父が神田の家の玄関の隣りのところにありました二畳の部屋の畳をあげて、下の土を深く掘って小さな階段をはめまして防空壕ごうを作りました。昭和19年、母は妹2人(小1と2才)を連れて長野県松代に疎開(2)致しました。父は甥おいと一緒に小さなトラックで、自分の生れた家の近くで借りていた15畳の部屋に、私達の生れた町から写真や小さな家具を何回か運んでいました。

昭和20年2月25日の朝、雪が降っていたようでしたが、6時頃に空襲の音と共に祖母と父に起こされ防空頭巾をかぶり、

祖母と防空壕ごうにもぐりました。その前から敵の飛行機のB29の音のすごさと同時に、お向いの玄関のガラスの一枚戸がガラガラガラビシャとこわれた音がしました。その時、何回も爆弾の落ちる音、爆風の音や爆破の音と、ただただこわさでいっぱいでした。その上、家が時々くずれる様子がわかり、父が少し表に出ますと、少し先で燃えるのが見えました。それで、この防空壕ごうでも危ないから逃げようということになりました。お隣さんにリヤカーがありまして、2軒で一緒に逃げるということになりました。ふとんとまくらを

【東京空襲】

東京は昭和19年11月14日以降に106回もの空襲を受けました。特に昭和20年3月10日、4月13日、4月15日、5月24日未明、5月25日-26日の5回は大規模でした。

その中でも、死者数が著しく多い昭和20年3月10日の空襲(下町空襲)は「東京大空襲」と呼ばれ、この空襲だけでも罹災者は100万人を超えました。

当時の警視庁の調査での、3月10日の被害数は以下の通りです

死亡：8万3793人
負傷者：4万918人
被災者：100万8005人
被災家屋：26万8358戸

のせ今思うと、御飯の入っていたお鉢もあったようでした。その時、雪と火花が頭の上をとんでいましたが、爆弾の音も聞こえました。とにかく三軒家を通りすぎて四ツ角に来て火事のようなようでしたが、無理矢理に中をくぐって行きました。今考えますとどの位かわかりませんが、祖母、父、私とお隣さん2人で神田駅を越して今の淡路町（神保町の本屋さんあたりより手前）の淡路公園に来ましたが、人、人でいっぱいでした。でも神田駅の私の住んでいたところと反対の方は、爆撃していませんでした。夕方空襲警報が解除になりまして、父が家を見てくると出て行きました。割合に早く帰りまして「10軒位先まで燃えているが家が大丈夫なようにすっかり鍵をかけてきた」と言って、私の教科書と逃げた時にも持って来ましたが、別の御飯の入っているお鉢を持って来ました。そのうちうす暗くなりました時、私達の名前を言っている声が聞こえました。淡路町で高級家具の店をしていた遠い親戚が迎えに来てくれたので3人で行きました。そして家に着き夜になりフカフカのおフトンに寝かして下さり、お家の方は座ぶとんにお休みしていらっしやいました。その時の有難さは今でも忘れられません。昨年思い切って淡路町まで行って見ましたが、あれからすっかり建物が変わり、ビルばかりでわかりませんでした。翌々日、父は会社の宿直室、祖母と私は祖母の姉が世田谷にありましてお世話になりました。そこで3月9日の浅草の大空襲で真赤な空が見えました。翌日、祖母と2人で母のおります松代に参りました。松代では30分友達と歩いて行きますが2回ほど警報がある位で橋の下にかくれました。皆さんラジオが無く、近くの温泉で8月15日のラジオを聞きましたがよくわかりませんで、アメリカの人が来るかもとか、外に出てはいけないとか言われました。今考えてみますと、神田で空襲の前食べるものが無く、御飯といいましてもキビでした。うどん粉ではなくワラのような物とか、おいものくきとか、時折り父が母の着物を持ち私を連れて農家まで行って、おいもと替えてもらったことを思い出します。たまにラジオで「何班すけそうだら」という声ばかり聞こえていました。私たちは松代で御飯をいただきましたが、東京におりました父は毎日食事に苦労したそうです。今思いますと、肉もほとんど食べなかった私など、今でもとても

健康です。今の若い方の食事は和食が少ないように考えられます。

私は終戦の翌年昭和21年4月から東京の元の女学校(昔は6年生から入学しますが女学校でした)に戻りました。淡路町の親戚から学校に行ってましたが、弁当を持って来られない方もいて、土日月火と休みで私も月1回は松代に帰りました。汽車が混んで何回連結にぶらさがったかわからず、トンネルになりますと奥の方からだんだんとおされました。帰りは何回も荷物検査があり、教科書も放り出されましたことを思い出しました。

戦争はいやです。平和な日本であることを祈っております。

-
- 1 大東亜戦争...太平洋戦争をいう当時の日本側での呼称。
 - 2 疎開...空襲の被害を避けるために、一箇所に集中する施設や人員などを分散させること。